

Cloud Evolution

Make innovation a habit

クラウドの進化
常にイノベーションを実践

HCLTech | Supercharging
Progress™

目次

序文	03
継続的なモダナイゼーション	06
クラウドの可能性を最大限に活用	11
意見の相違	16
テクノロジーの進化を後押し	19

序文

クラウドは今も進化を続けています。クラウドがスケラブルで費用対効果の高いコンピューティング手法として証明されており、大規模な成長を目指して変革する組織にとって最適なビジネスプラットフォームとなりつつあります。

クラウドをビジネスプラットフォームとして選択している企業は、日常的にイノベーションを起こしています。なぜなら、クラウドはプラットフォームとして、提供するサービスにより、次のような方法で企業の俊敏性を高めることができるからです。

■ **地政学的な出来事、経済的事象など規模の大きい世界的な課題に対応する**

■ **持続可能な未来をもたらすための新しいプログラムとプロセスを調整する**

■ **未来を確実に変化させる新しいテクノロジーを採用する**

世界中そして産業界全体で、クラウドの利点が話題になっています。しかし、すべての企業がクラウドへの投資を最大限に活用できているのでしょうか。

クラウドでより多くのことを実行し、最大限に活用する準備はできていますか？ 既に行った投資を後悔していませんか？ クラウドによる未来を得るために、何が機能していますか、何をする必要がありますか？

組織が変革のためにクラウドテクノロジーをどのように活用しているのか、活用の障壁となっているものが何かを把握するために、ビジネス／IT部門の経営幹部層500名を対象に調査を実施しました。その結果、最先端テクノロジーを実現するプラットフォームとしてのクラウドのインパクトの大きさが明らかになりました。

調査結果には一貫している部分と矛盾している部分があります。このため、**説得力のある出来事、最大の利益をもたらす投資**、そしてクラウドの可能性を実現するための**クリティカルパス**にあるプロジェクトを詳しく見ていきます。

1

説得力のある出来事 企業のクラウド戦略は、絶えず変化するビジネスの課題に対応し、クラウド上のみで活用でき、次々に生まれる最先端テクノロジーに対応するために進化する必要があります。市場勢力図の変化、地政学的な課題、経済的な圧力など、対処しなければならない出来事があります。

2

クラウドへの投資の活用 クラウドへの投資を十分に活用していると回答しているのは、経営幹部のごく一部にしかすぎません。経営幹部は、クラウドの活用率を高めて一貫した投資収益率を達成することで、イノベーションを促進できると述べています。

3

クリティカルパス クラウド機能の使用を妨げる障害は、現在のビジネスの状況と業界に応じて異なります。調査で経営幹部が特定した障害には、保存中と使用中のデータの保護に関する懸念、クラウド運用に影響を与える人材不足、サイバーセキュリティ、生成 AI などの最先端テクノロジーの導入などがあります。

このレポートでは、調査結果から、ビジネス戦略とクラウド戦略の関係について何がわかり、クラウドへの投資（多くの回答者は、ビジネスの成果を向上させる可能性があるとして述べています）のあり方を改善するために何ができるかを詳しく見ていきます。また、クラウドの実装と管理のプロセスに精通している専門家からも話を聞き、企業が常にイノベーションを実践するためのステップを提案します。



未来は明るい

この調査からは前向きな結果が得られ、積極的なクラウド戦略をとる企業と、大きく成長するためにイノベーションを優先する企業の間にある相関関係が浮き彫りになりました。また、経営幹部の中には、自分の会社がクラウドをビジネスプラットフォームとして利用できるような状態ではないと感じる人がいることもわかりました。

調査に参加した経営幹部は、生成 AI (人工知能) のような新しいテクノロジーの可能性に期待を寄せており、このようなテクノロジーの恩恵をまっ先

に受けるのは実用的なクラウド戦略をとっている企業であると認識しているようです。

クラウド戦略を軽視する組織は、競合他社がイノベーションを加速したときに遅れを取るようになるでしょう。



クラウドは単なるインフラではなく、ビジネスの柔軟性と成長に不可欠なプラットフォームです。クラウドは、顧客、パートナー、サプライヤー間のコラボレーションや交流を促すエコシステムを育み、成長を追求する共生型ビジネスモデルへとつながっていきます。企業は、この共生型のビジネス環境を軸にビジネスの在り方を再考しています。そうすることで、業界の長期的な繁栄と差別化が約束されるのです」

カルヤン・クマール (Kalyan Kumar)
HCLTech グローバル CTO 兼 エコシステム責任者



本調査について

2023年3月、HCLTechはFinancial Timesの調査／ソートリーダーシップ部門であるFT Longitudeにこの調査を委託しました。

500人の経営幹部（上級役員、取締役、部長、C-Suiteメンバー、役員、シニアバイスプレジデント、バイスプレジデント）に話を聞きました。

この組み合わせは、ビジネスとITの両方からの観点を捉えることを目的としています。多様な意見を得るために、アメリカ大陸、ヨーロッパ、アジア太平洋地域の17の分野から参加者を選びました。

また、クラウドや関連技術の可能性を活用した経験を持つ以下の専門家の皆様にも話を聞きました。このレポートでは、クラウドテクノロジーの役割と、イノベーションと継続的なモダナイゼーションを可能にするためにクラウドテクノロジーをどのように活用できるかについて、専門家各位の見解もご紹介します。



ラーヒル・ブルハーニ (Raahil Burhaani) 氏
Essar Oil 社 UK、
CIO（最高情報責任者）



マイク・ケイル (Mike Kail) 氏
PrimaryIO 社
CTO（最高技術責任者）



シャム・エンジェティ (Shyam Enjeti)
HCLTech デジタルビジネス担当エグゼクティブ・バイスプレジデント



カルヤン・クマール (Kalyan Kumar)
HCLTech グローバル
CTO 兼 エコシステム責任者



シキ・ジュンタ (Siki Giunta)
HCLTech エグゼクティブ・バイスプレジデント、CloudSMART、
インダストリークラウド・コンサルティング担当



スレーシュ・サンカラン (Suresh Sankaran) 氏
Metro銀行、
モデルリスクとガバナンス担当責任者



メグ・グリーンハウス (Meg Greenhouse) 氏
Zalando Technology
財団、シニアバイスプレジデント



サンジョイ・ゴーシュ (Sanjoy Ghosh)
エンジニアリング・R&Dサービス担当エグゼクティブ・バイスプレジデント
HCLTech

Continuous modernization

継続的なモダナイゼーション

継続的な モダナイゼーション

私たちの調査によると、ほとんどのリーダーは過去 3 年間で 2 回以上はビジネス戦略を転換する必要に迫られました。

継続的なモダナイゼーションは、繁栄するビジネスにとって標準となっています。なぜそれほど重要なのでしょうか？

1. 重大な問題への迅速な対応。

ビジネスリーダーは、変化に対して俊敏に対応するには実行可能なクラウド戦略が必要だと述べています。迅速な対応が必要となるイベントには、顧客の嗜好による頻繁な変更、サイバー攻撃、持続可能性目標の達成などがあります。クラウドは迅速な対応を可能にします。

経営幹部の 90% 以上が、クラウドにより顧客の嗜好の変化にすばやく対応できるようになったと回答しています。例えば、多くのアプリケーションは、顧客、顧客の商品の好み、注文頻度、人口統計データに関するデータを生成します。クラウドを使用すると、企業はこれらのデータを集約し、AI を使用して分析することで、重要なインサイトを獲得できます。クラウドを使用すると、データグラビティにより分析能力が向上し、より良い結果を得ることができます。

Essar Oil 社 UK の CIO（最高情報責任者）である Raahil Burhaani（ラーヒル・ブルハーニ）氏は次のように述べています。「クラウドにより、人々は IT にアクセスすることなくデータを操作できます。今では、クラウド戦略のために推進されているセルフサービスの方が重要になっています。そして、このサービスにより、ビジネスチームはより速く、より優れた業務を遂行することができます。」

また、経営幹部の 90% 以上が、クラウドによってサイバー攻撃を迅速に特定して対応できるようになったと回答しています。クラウドプロバイダーと連携することで、攻撃に即座に対応し、攻撃者を隔離し、ネットワークトラフィックをリダイレクトして会社の資産を保護できます。クラウドプロバイダーは、セキュリティを最優先にするため、セキュリティポスチャの侵害により引き起こされる障害がビジネスに与える影響を把握しています。



クラウドにより、IT にアクセスすることなくデータを操作できるようになりました。今では、クラウド戦略のために推進されているセルフサービスの方が重要になっています。そして、このサービスにより、ビジネスチームはより速く、より優れた業務を遂行することができます。

ラーヒル・ブルハーニ (Raahil Burhaani) 氏

Essar Oil 社 UK、
CIO（最高情報責任者）

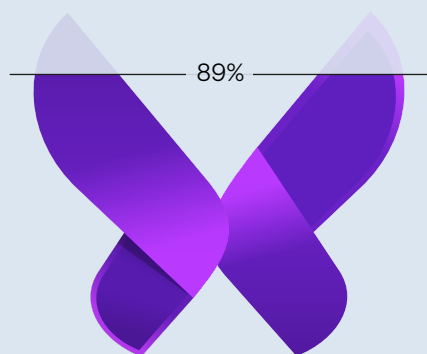
クラウドが**持続可能性**戦略をサポートしていると回答している経営幹部の割合は非常に高く91%に達しています。例えば、Essar Oil 社 UK では、クラウドは日常業務におけるペーパーワークを削減しました。

「当社の工場で許可証を発行するシステムは、現在クラウドベースになっています。許可証があれば、必要なさまざまなドキュメントに簡単にアクセスできます。」と Burhaani 氏は述べています。以前は、紙ベースのソリューシ

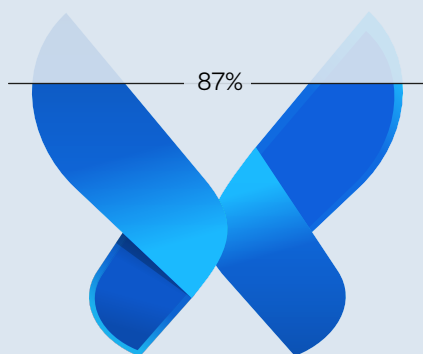
ョンを使用していましたが、紙から SaaS (Software-as-a-Service) に直接移行しました。」

ビジネスプラットフォームとして、クラウドはビジネス戦略の変化に俊敏に対応できます。テクノロジープラットフォームとしてのクラウドは、耐障害性に優れており、IT 部門は新しいアプリケーションや作業プロセスを開発し、データ戦略を導入してビジネスコストを削減できます。

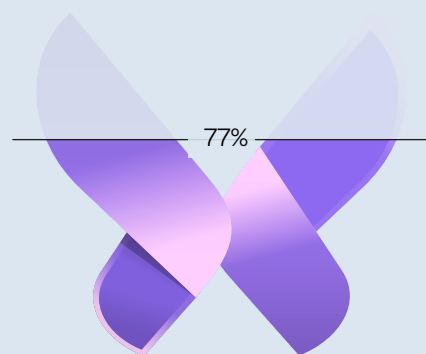
クラウドで重大な問題に対応



89%
の経営幹部がクラウド
は地政学的変化への対応に
役立っていると回答

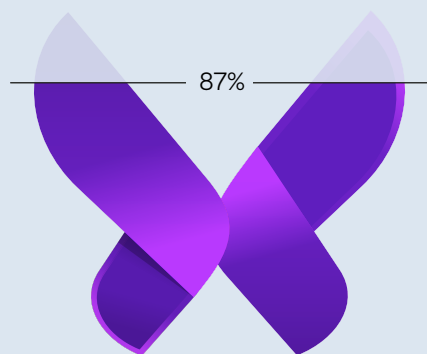


87%
の経営幹部がクラウドは
グローバルサプライチェーン問題
の回避に役立ったと回答

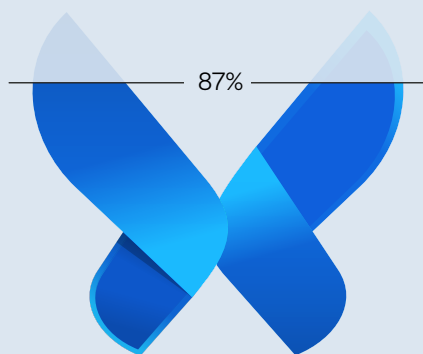


77%
の経営幹部がクラウドは
インフレ率の上昇による影響を最小限に
する方法だと考えていると回答

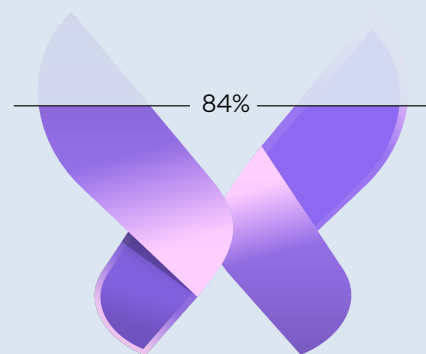
クラウドとのコラボレーションがなければ、戦略の変更に苦労する



クラウドを活用しなければ、
自社で戦略の変更を達成
できなかったらう



部門間の効果的なコラボレーショ
ンがなければ、自社で戦略の変
更を達成できなかったらう



クラウドを介してデータを効果的に共
有できなければ、自社で戦略の変
更を達成できなかったらう

過去 3 年間に戦略を転換した企業の割合

2. 戦略の切り替えを高速化

調査に回答した経営幹部のほとんどは、過去 3 年間で少なくとも 2 回はビジネス戦略を転換する必要があり、クラウドなしでは、その転換は実現できなかったと考えています。

戦略的な転換は通常のことです。しかし、世界的な健康危機、生活費や購買習慣に影響を与えるインフレ率の上昇、エネルギー・サプライチェーンに影響を与える地政学的インフラの不安定化など、過去数年間の出来事により、多くの企業が予想外の圧力を受けています。通常ではない、不確かな時代になっています。

■ **87%** の経営幹部が、クラウドは、膨大な数の従業員が在宅勤務をする際に役に立ったと回答しています。

金融サービスや医療業界に所属する調査参加者の多くは、クラウドによって継続的に顧客や患者にサービスを提供できることに同意しています。この結果は、モバイルバンキングや遠隔医療などのサービスの成長が部分的に動機となっている可能性があります。この変化は、開発の高速化とクラウドアプリケーションの実装なしでは実現することはなかったでしょう。

■ **91%** の金融サービスと医療業界の経営幹部が、クラウドを重要な成功要因と認識しています。

■ **87%** の製造業の経営幹部と **83%** の消費者サービスの経営幹部が、ビジネスが課題に直面した際に、クラウドにより戦略的な転換を実行できたと回答しています。



当初はサーバーやデータセンターからスタートしていましたが、成長するにつれ、顧客にこれらの機能やエクスペリエンスを提供する方法を再考し始めたとき、たどり着いた唯一の方法がクラウドでした。クラウドは、私たちが望む成長を達成し、会社の求めることを実現し、機敏さを維持して柔軟性を提供するために不可欠です。」

メグ・グリーンハウス (Meg Greenhouse) 氏

シニアバイスプレジデント

Zalando Technology 財団

驚きの調査結果

全般的に、この調査では、経営幹部は進歩を確かにする上でクラウドの役割に対して肯定的な意見を持っていることがわかります。しかし、24%の組織が、今後3年間でアプリケーションやワークロードの一部を従来のIT環境に移行することを計画しています。通常、このプロセスは「オンプレミス回帰」と呼ばれています。

私たちは、この傾向とクラウド導入の意味を専門家パネルに尋ねました。クラウドソリューション企業 PrimaryIO の CTO（最高技術責任者）であるマイク・ケイル（Mike Kail）氏は、クラウド向けに最適化されていないワークロードによりオンプレミス回帰になる可能性があると説明しています。「通常、オンプレミス回帰は、ワークロードを最適化せずに移行またはリフトし、クラウドにシフトした結果として発生します」と同氏は述べています。「クラウドのすべてのメリットを得るには、アプリケーションとワークロードを最適化する必要があります。」

ワークロードを最適化するには、新しいクラウドネイティブ・アプリケーションを書き換えたり、または新たに書き込む必要があります。こうした事実は、企業が単にアプリケーションをクラウドに移行するよりも、アプリケーションのモダナイゼーションを優先する必要があることを示しています。ワークロードの場所を変更しても、クラウドのセキュリティ、俊敏性、耐障害性を完全に活用できるモダナイゼーションと同じメリットを得ることはできません。

ケイル氏は、企業は「クラウドがもたらす俊敏性と柔軟性という投資収益率」を考慮する必要があると指摘しています。ワークロードをクラウドからオンプレミス環境に戻すという短期の意思決定は、ビジネスに悪影響を及ぼす可能性があります。



オンプレミス回帰は、インフラワークロードに関する話題であり、ビジネス価値に関する話題ではありません。ワークロードをクラウドに移行することの目的が、ビジネスプロセスの変革とモダナイゼーションであるなら、オンプレミス回帰は実行可能なオプションではありません。アプリケーションをモダナイズしていない組織は、コスト削減策に選んだクラウドが、期待したコストを削減できないため、オンプレミス回帰を検討しているのかもしれない。」

カルヤン・クマール (Kalyan Kumar)

グローバル CTO 兼エコシステム責任者
HCLTech



Maximizing cloud's potential

クラウドの可能性を最大限に活用

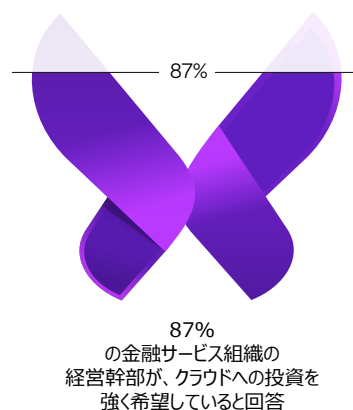
クラウドの可能性を 最大限に活用

調査のリーダーのほとんど (73%) が、自社のビジネスはクラウドの可能性を引き出し始めたばかりだと答えています。この回答は、継続的なモダナイゼーションを実現できる輝かしい未来を示唆しています。回答者の 10 人中 8 人 (82%) が、クラウドの導入が企業に競争上の優位性をもたらすと考えています。

行く手を阻むものは何か？

残念ながら、回答者の 59% は、経営幹部が自社のビジネス戦略がクラウドの移行を促進する必要性を理解していないと回答しています。このデータは、組織がクラウドでできると考えていることと、クラウドが現在のビジネスに与えている影響との間にギャップがあることを示しています。

この意見は、当社の調査では業界全体に広がっていますが、金融サービスは、ビジネスリーダーが自社のビジネスがクラウドの可能性を最大限に活用していないと認識している可能性が最も高い業界です。これらの回答者は、セキュリティとプライバシーがクラウドの最大の懸念事項であると考えています。データを保護し、預金者を護るクラウドの能力に対する信頼が、金融サービス企業のクラウド戦略の進化に影響を与えている可能性があるということです。



クラウドの進化は、現在のエクスペリエンス中心の世界でビジネス運営に革命をもたらしました。企業は、俊敏性、柔軟性、拡張性、コンプライアンス、セキュリティニーズと、最適な経済性とのバランスを取る必要があります。これは、ハイブリッドモードで人、プロセス、テクノロジーを適切に組み合わせた場合にのみ実現できます。HCLTech のハイブリッド・クラウドサービスは、コンサルティング、移行、モダナイゼーション、システム統合、運用、管理、統合に至るまで、クラウドサービス全般をカバーしています。戦略的エコシステム、インテリジェントオートメーション、人工知能に対応する当社が提供する持続可能なサービスとフルスタック・オペザバビリティ、差別化された消費モデルにより、企業がイノベーション、ビジネスの成長、顧客中心主義など重要な課題に集中できるように支援します。」

ランパル・シン (Rampal Singh)

HCLTech

グローバルビジネス責任者 - ハイブリッドクラウド



障壁の克服

この調査結果から、クラウドテクノロジーの迅速な導入と、利用を妨げる主な障壁は、**セキュリティ**、**人材**、**文化**の3つであることが示されています。



セキュリティ

すべての業界の回答者の41%が、クラウドを使用してビジネス目標を達成する際の障壁としてセキュリティに関する懸念を挙げています。

PrimaryIOのCTOであるマイク・ケイル（Mike Kail）氏は、多くの企業が依然として従来のセキュリティ手法を使用しているため、クラウドに必要な先を見越した細分化されたアプローチに移行する際に懸念が生じると述べています。「セキュリティに関する懸念は、人、企業、業界によって確かに異なります」と同氏は述べています。「多くの企業は、依然としてファイアウォールやルーターアプライアンスなど、従来のセキュリティ境界からの進化と移行の最中です。」

「クラウドテクノロジーを導入すると、セキュリティに対して事前対策を講じ、リスクを継続的に監査する必要があります」と同氏は続けます。「クラウドの能力と柔軟性を導入するにあたっては、最新のセキュリティツールとプロセスを使用する必要があります。」



人材

トレーニングを受け、認定された経験豊富な人材の需要は、供給を超えています。最近のクラウドプロジェクトについては、2/3の経営幹部が、クラウドでの新しいプロジェクトを完了させるために必要な時間を過小評価していたと答えています。また、70%がスキル不足により、クラウドを効果的に使用する能力が影響を受けていると回答しています。

「業界が直面している問題は、新しく資格を取得してスキルを持つ人が多数いる一方、彼らには経験が不足しているということです。」と、HCLTechのエグゼクティブ・バイスプレジデントでCloudSMART戦略とインダストリー・クラウド・コンサルティング・オフアリングを担当しているシキ・ジュンタ（Siki Giunta）氏は説明します。「これらの人材は、知識は持っているのですが、その将来に投資するのです。この投資は、十分なトレーニングと経験を積んだ技術的労働力の構築のために必要なステップです。今日投資を行うことで、将来に価値を実感できます。」

経営幹部の約3/4（71%）が、クラウドテクノロジーへの投資の必要性についてビジネスケース（論理的な説明）を作成するのは難しいと回答しています。59%が経営幹部は、ビジネス目標や意思決定のためにクラウドの使用方法を知る必要があることを理解していないと回答し、56%が経営幹部はクラウドテクノロジーやイノベーションに十分な関心を持っていないと回答しています。おそらく、これらの経営幹部は、クラウドが収益をもたらすのではなく、コストを節約するものであると考えています。



文化

すべての企業には、意図的に、または偶発的に生まれた文化があります。多くの企業では、協力体制に参加し、促進することが成功要因と考えられています。クラウドの価値を十分に理解するためには、ビジネスリーダーとテクノロジーリーダーは、クラウドプロジェクトで協力し、有意義な事業成果を生み出すために、構造化された方法でコミュニケーションを取る必要があります。経営幹部の約1/3 (32%) が、ビジネス部門とテクノロジー部門の連携体制が十分に整わないことが、クラウドを使用してビジネス目標を達成する能力を妨げていると報告しています。

経営幹部は、最新のクラウドプロジェクト期間中、企業文化がイノベーションの障壁であったと述べています。

このプロジェクトでクラウドを活用するのにかかる時間を過小評価していた 66%

自社の企業文化によって、このプロジェクトで実現できたはずの効果的なイノベーションが妨げられていた 58%

IT/テクノロジー部門以外の十分な戦略的な意思決定を行っていない 55%

58%という驚くべき数の経営幹部が、最新のクラウドプロジェクト期間中に、企業文化によってイノベーション能力が制限されていると回答しています。運輸、物流、流通業界の経営幹部にこのような回答の傾向が顕著にみられ、消費者サービス、テクノロジープロバイダー、製造業者の経営幹部からは同様の回答はあまり見られませんでした。

一部のセクターでは、クラウドがプラットフォームとして選ばれるようになっていたため、企業はコラボレーションを促進し、柔軟でスケーラブルな作業プロセスに向けて努力する文化を取り入れる必要があります。数字は、企業がイノベーションとスピードを優先する文化を促進するために、次のステップに進む必要があることを示唆しています。



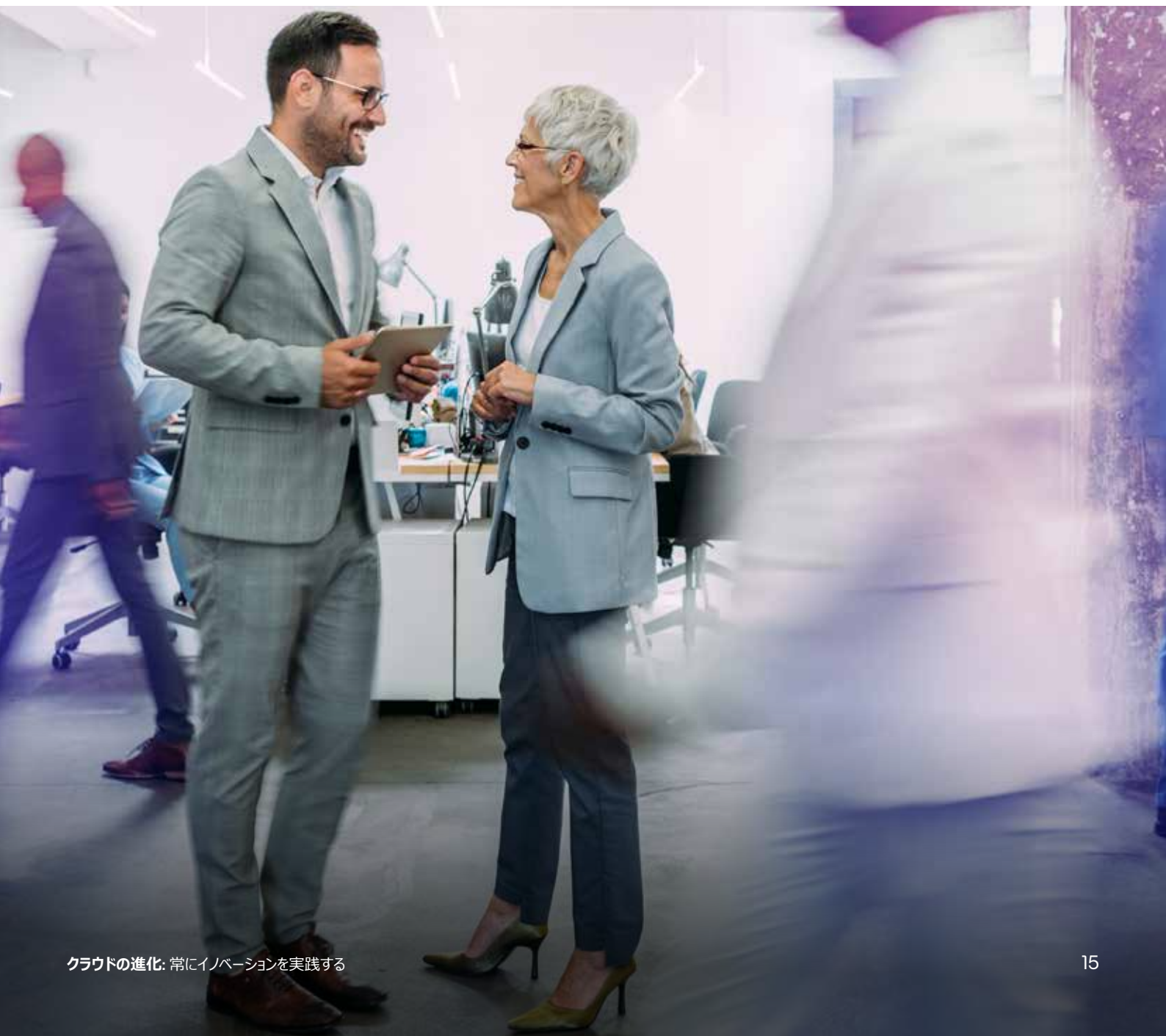
ハイブリッドワークの導入は、組織の考え方を根本から変える出来事でした。現在でもなおオンプレミスの導入戦略を計画しているとしたら、やり直しが利かない災害を招くことになります。このことは、組織がクラウド戦略をビジネス戦略や組織戦略に組み込み、定着させることが理にかなっている理由の代表的な例です。」

スレーシュ・サンカラン (Suresh Sankaran) 氏

Metro 銀行、
モデルリスク・ガバナンス責任者

HCLTech のデジタルビジネス担当エグゼクティブ・バイスプレジデントの Shyam Enjeti（シャム・エンジェティ）氏が、クラウドがコラボレーションの文化をどのように発展させるかについて次のように説明しています。「これまで IT は注文取りとみなされており、オンプレミスの世界では、時間通りに作業が終わらない可能性があるため、ビジネスチームが不満を感じるようになっていました。しかし、クラウドはこの認識を極めて劇的に変えました。クラウドの世界では、IT はビジネスによって特定された機会に迅速に対応できます。これにより、スムーズに業務が遂行され、コラボレーションが促進されます。新しいモデルは、IT がイノベーションに集中し、ビジネスチームとそのイニシアチブを調整するために必要な時間を提供します。」

クラウドによって実現される新しい働き方を企業が実行に移すとき、変化が起こるのは当然のことです。アプリケーションがデジタル化されると、日常的なタスクや作業プロセスが変化し、多くの従業員が影響を受けます。変化は誰にとっても心地好いものではありません。そのため、リーダーはこれらの進化が受け入れられるように、サポートし推し進める必要があります。



Differences of opinion

意見の相違

意見の相違

調査によると、IT リーダーは、保留中のクラウドプロジェクトについて企業が把握していることと、理解していることを過大評価しています。この数字から興味深いことがわかります。

IT リーダーとビジネスリーダーは、ビジネスイネーブラーとしてクラウドに対する企業の組織的認識について、さまざまな見解を持っています。また、戦略の背後で会社がどのように連携しているかという認識と、クラウドのメリットを実現する方法をどのように策定するかという認識との間にもギャップがあります。



IT リーダーの 91% が、クラウドの可能性と能力はすべての部門で理解されていると考えている一方で、**ビジネスリーダー**のうち、クラウドはビジネスに影響を持ち得ると理解されていると回答しているのは78%にとどまりました。



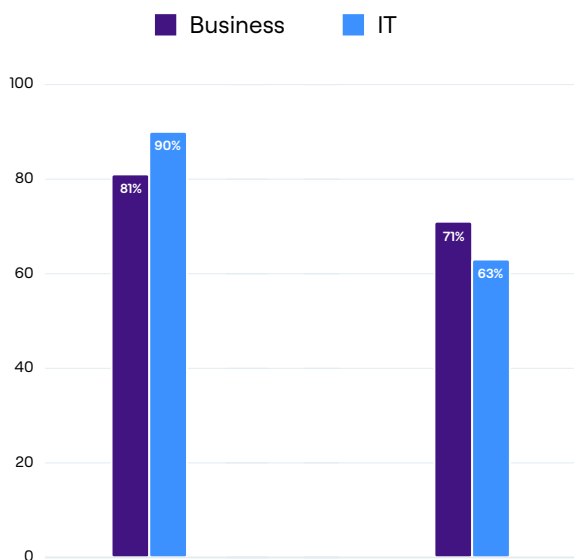
ビジネスリーダーの 78% に対して **IT リーダーの 86%** が、クラウドの専門知識を活用する方法を誰もが知っており、定期的に会議を開き、クラウド戦略について話し合い、計画を更新していると回答しています。



ビジネスリーダーの 81% に対して **IT リーダーの 90%** が、IT チームがクラウドを使用したイノベーションの可能性について他のビジネス部門とコミュニケーションを取っていると回答しています。

ビジネス目標を達成するためにクラウドを使用している組織のうち、34% が、各プロジェクトの明確なビジネス成果を定義できていないと回答しています。

IT リーダーは、クラウドの認識がより楽観的



自社のテクノロジー/IT チームが、クラウドで実現可能なイノベーションについて、他の部門とコミュニケーションを取っている

テクノロジー部門以外では、クラウドのビジネスにおける可能性を理解している人が少ない



クラウドの導入がかつてないほど急増したことで、さまざまな業界の組織は、実証可能なビジネス成果を得ることができました。当社のデジタルエンジニアリングの提供に際して重要な柱の1つは、クラウドテクノロジーやデータの能力と組み合わせたときに非常に柔軟性が高くスケーラブルになる、強力なデジタルプラットフォームを構築することです。これにより、お客様は従来の構造を超えてバリューチェーン全体の成長速度を早めることができます。当社は、プロセスの俊敏性を高め、複雑さを軽減し、業務に効率性を導入し、根本的な変化をもたらすイノベーションへの道を切り開くための適切なクラウド戦略の選択を支援します」

サンジョイ・ゴーシュ
(Sanjoy Ghosh) 氏
エグゼクティブ・バイスプレジデント
エンジニアリング・研究開発サービス
HCLTech





「IT チームはクラウドに関する技術的な知識を持っています。一方、ビジネスチームは、クラウドがより広範な規模で達成できることは何かについてビジョンを描くことができます」と、HCLTech のグローバル CTO 兼エコシステム責任者である カルヤン・クマール (Kalyan Kumar) 氏は述べています。「ビジネスチームにクラウドのビジネス機能を理解しているメンバーがいることは、非常に貴重なことです。これらのメンバーが IT チームと協力して、クラウドのイノベーションがビジネスのビジョンをどのようにサポートするか話し合うことができます。」

「ビジネスプラットフォームとしてのクラウドの性質そのものと、テクノロジーをクラウドサービスとして簡単に利用できるという事実が、IT とビジネス間にあるギャップを埋めているのをよく目にします」と同氏は続けます。「これまで IT でサイロ化されていた意思決定を制御できます。」

ビジネスリーダーと IT リーダーは、クラウドの理解度について少し異なる見解を持っているかもしれませんが、当社の調査では、両者には、互いにもっと協力したいという一定の同意が示されています。企業は、組織のサイロ化がイノベーションと自動化の妨げになることをよく認識しています。

「

多くの企業が従来のサイロから脱却しつつあります。ビジネスと IT に区別はなく、両者は同じチームの一員であり、収益と利益を上げるために製品や事業運営を改善するといった、同じ競争上の使命に向かって共に手を携え、努力しています。」

シャム・エンジェティ (Shyam Enjeti)

HCLTech デジタルビジネス担当
エグゼクティブ・バイスプレジデント



Powering **evolving** technologies

テクノロジーの進化を後押し

テクノロジーの 進化を後押し

この調査結果は、ほとんどの企業が今後1年間にクラウドテクノロジーへの投資を増やすことを示しています。

テクノロジーは絶えず進化しており、組織は継続的なモダナイゼーションを優先し、テクノロジーを使用して管理できるようにする必要があります。生成 AI などの新たなテクノロジーで最先端に位置することを目指す企業には、堅牢なクラウド戦略が必要です。

2022 年末に ChatGPT が発売されたことで、生成 AI はテクノロジーの世界で最も話題のトピックとなりました。現在、企業は、潜在的な問題を回避しながら生成 AI を組み込む方法を模索しています。当社の調査では、87% のリーダーが積極的に生成 AI の導入を検討していると回答し、90% が1年以内に生成 AI を使用すると回答しています。

「クラウドは世代交代や社会変化を生み出し続けています」と HCLTech の CloudSMART 責任者である Siki Giunta 氏は述べています。「生成 AI のよく知られている例に ChatGPT があります。クラウドによって促進される膨大な量のデータと高速アクセスにより、この最新のイノベーションは実現しています。企業は、ChatGPT モデルを実現するために十分な品質の

データがあるかどうかを判断する必要があります。また、適切なクラウド戦略を策定し、大規模な生成 AI の使用を開始して重要な意思決定を行うことができるようにする必要があります。」

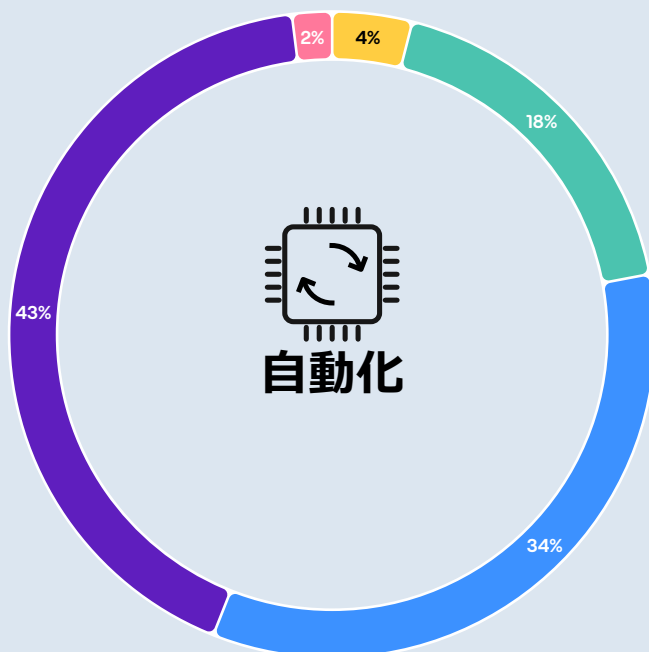
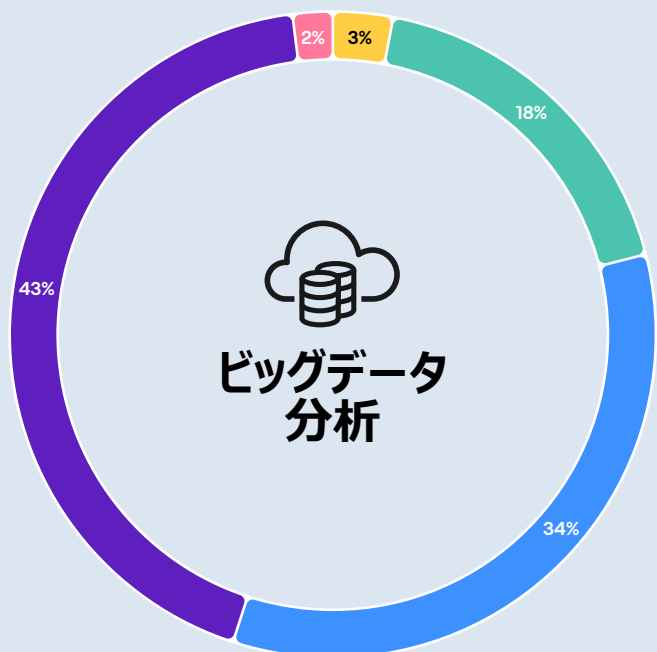
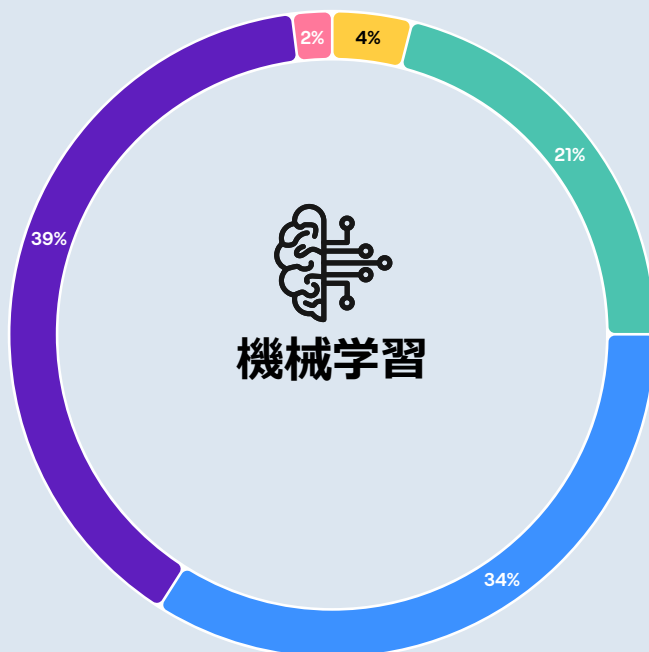
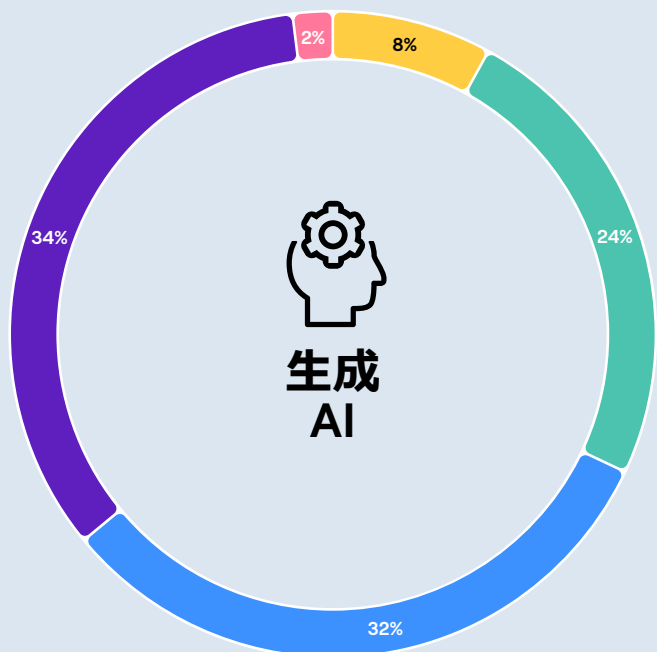
この調査結果は、Giunta 氏の主張を裏付けています。経営幹部の 85% は、生成 AI を実現する上でクラウドが果たす役割を認識しており、適切なクラウド戦略さえあれば生成 AI を導入できることに同意しています。

IT サービス企業、テクノロジー開発者、メーカー、製造業、金融サービス企業は、生成 AI が絶好のビジネス機会であることに同意しています。医療分野の人々でさえ、このテクノロジーの使用方法を模索することに関心を持っています。



ほとんどの企業が今後12か月間でクラウドテクノロジーへの投資を増やす見込み

- 既に導入済みで、今後12か月以内に使用量を増やす予定
- 既に導入済みで、今後12か月以内に使用量を増やす予定はない
- 現在は導入していないが、今後12か月以内に導入を計画している
- 現在は導入していない、今後12か月以内に導入する予定はない
- わからない/該当しない



常にイノベーションを実践する

調査結果を振り返り、当社のグローバルなお客様と協力した経験を活かすことで明らかになったことは、イノベーションが最優先事項であり、実行可能なクラウド戦略によって、どの業界でもイノベーションを達成できるということです。

常にイノベーションを実践する 5 つの方法:



1. ビジネスプラットフォームとしてのクラウドの活用で俊敏な組織を実現する

リーダーたちは、サイバー攻撃、地政学的な出来事、持続可能性目標の達成などの重要な問題に、クラウドで迅速に対応できると述べています。またクラウドの活用により、過去 3 年間の間にビジネス戦略の転換も実現したと回答しています。俊敏性を実現する手段としてクラウドがもたらすメリットを考えれば、ワークロードをオンプレミスのレガシー環境に戻すという判断は性急に過ぎており、再考に値します。代わりに、クラウドに移行する前にワークロードを最適化することが重要です。



2. クラウド文化を中心に企業文化を構築する

回答した経営幹部のほとんどは、企業文化がイノベーションを妨げていると述べています。クラウドテクノロジーからメリットを得るには、クラウドが提供する柔軟性、耐障害性、革新性を働き方に活かす必要があります。この取り組みは、トップから始まり、徐々に組織全体に浸透していきます。



3. IT とビジネスのサイロ化を解消する

経営幹部の半数以上が、最新のクラウドプロジェクト期間中、戦略的な意思決定を IT 部門以外に行っていないと回答しています。CIO と CTO は、クラウド戦略をビジネスイニシアチブと成果に結び付ける必要があります。つまり、ビジネス部門とのコラボレーションが必要になります。



4. クラウドの認知度を高める

IT リーダーは、IT チームがクラウドのイノベーションの可能性について他のビジネス部門とコミュニケーションをとるという考えを支持していますが、このことに同意するビジネスリーダーは少数です。ケーススタディーとプレゼンテーションを使用して、企業全体にクラウドテクノロジーのメリットを伝え、計画的な演習を慎重に作成して、クラウドを活用したビジネス戦略を策定するための綿密な計画立案を実行しましょう。ビジネス上の意思決定の際にクラウドを推進するために、ビジネスチーム内に技術的役割を割り当てます。



5. クラウド戦略に AI のような革新的テクノロジーを取り入れる

革新的なテクノロジーからメリットを得るには、クラウド戦略のロードマップが、例えば生成 AI 戦略と緊密に連携していることを確認してください。ほとんどの企業は、このアプローチが不可欠であることを既に認識しています。85% のリーダーが、適切なクラウド戦略さえあれば、生成 AI を導入できると考えています。



www.hcltech.com

本資料は、2023 年 3 月にHCLTech が Financial Times 傘下のFT Longitude に実施を委託した調査レポート（英文）の日本語抄訳版です。

Copyright © 2023 HCL Technologies Limited